

■震災遺構の進捗等について(1/2)

[整備目的]

中浜小学校は東日本大震災の大津波から90名の命を救い、小学校としての歴史に幕を閉じたが、震災遺構として形を変え、写真や映像では伝えきれない大津波の爪痕、震災の脅威を伝承していく県南唯一の被災建築物として、また、地域の防災教育に取り組む上で重要な役割を担う施設であることから、保存に向けた整備を進めている。

[施設概要]

- 平成元年建設(築30年)・鉄筋コンクリート造(地上2階建)
- 延床面積: 2,310m²・敷地面積: 17,469m²
- 建設時には地域の方々の意見を踏まえ、高潮や津波への対策が施された校舎(地盤の嵩上げ、避難を想定した外部階段など)



[保存活用に係る経緯]

H26.1月～H27.2月	中浜小学校保存調査
H26.3月	震災伝承検討委員会(第1回)
H26.3月/5月	震災伝承等に関する町民アンケートの実施
H26.5月～H27.1月	震災伝承検討委員会(第2回～第5回)
H27.1月	震災遺構の保存・活用に関する提言書
H28.7月～H29.2月	基本計画策定業務委託(ワークショップ(全3回)/意見交換会(全2回)) 震災遺構保存・活用計画策定
H29.12月～H30.11月	校舎改修設計業務委託・展示設計業務委託(基本設計・実施設計) ※現在、基本設計まで進行中→今回報告
H31年度	震災遺構保存整備に係る改修工事
H32年度	公開予定

[保存活用の方向性]

- ①被災した校舎の現状を可能な限り保存する。
震災や津波の脅威や様々な教訓を将来にわたって伝承していくため過度な改修等を行わない。
- ②概ね20年間は校舎の内部を見せる。
震災後の調査により構造耐震指標が基準値以上であった。鉄筋コンクリート造の法定耐用年数期間は内部公開を行う。
- ③維持管理コストを低減する。
中・長期的に震災遺構を活用した伝承を行っていくため、財政面での負担軽減を図る。

[全体スケジュール]

事業項目	平成29年度			平成30年度			平成31年度			備考									
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
旧中浜小学校 震災遺構保存整備																			平成32年度 当初公開予定

進行中の業務:

- 校舎改修・広場設計業務(基本設計・実施設計)
- 展示設計業務(基本設計・実施設計)

計画中の業務:

- 校舎保存条例
- 建築審査会(建築基準法適用除外)(保存建築物指定)
- 全員協議会説明
- 校舎保存条例議会提案
- 予算議会提案
- ワークショップ開催
- 交付金申請(工事費)
- 工事契約議会提案
- 設置条例議会提案
- 設置条例議会提案

[保存条例の制定／建築審査会の同意]

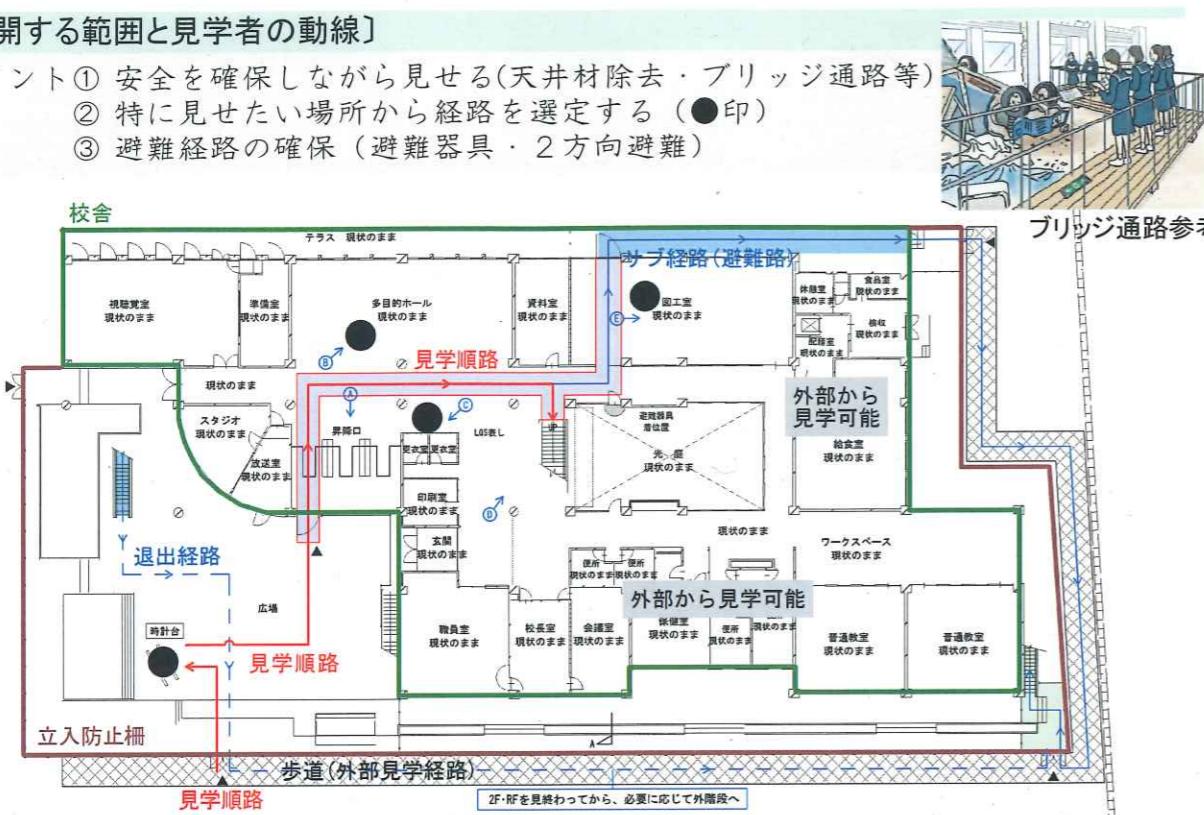


■震災遺構の進捗等について(2/2)

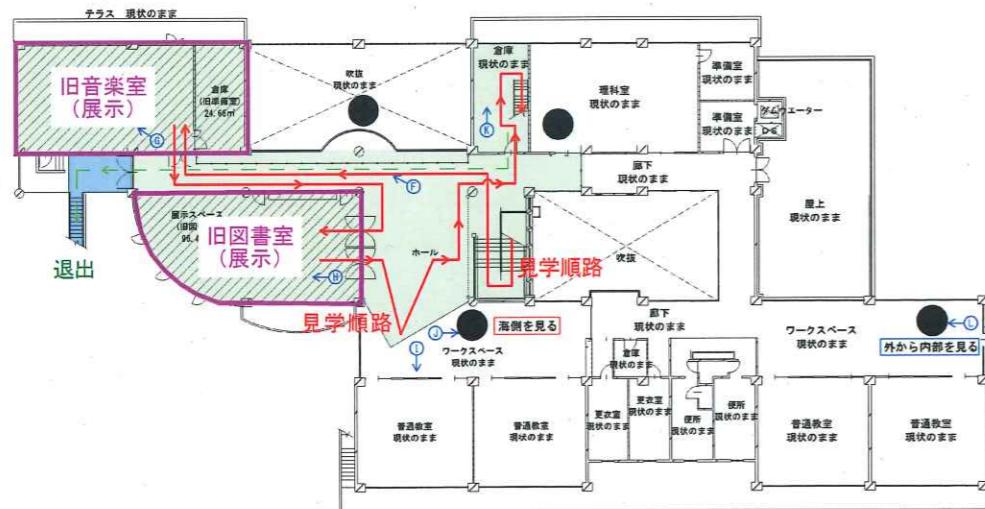
[公開する範囲と見学者の動線]

- ポイント① 安全を確保しながら見せる(天井材除去・ブリッジ通路等)
- ② 特に見せたい場所から経路を選定する(●印)
- ③ 避難経路の確保(避難器具・2方向避難)

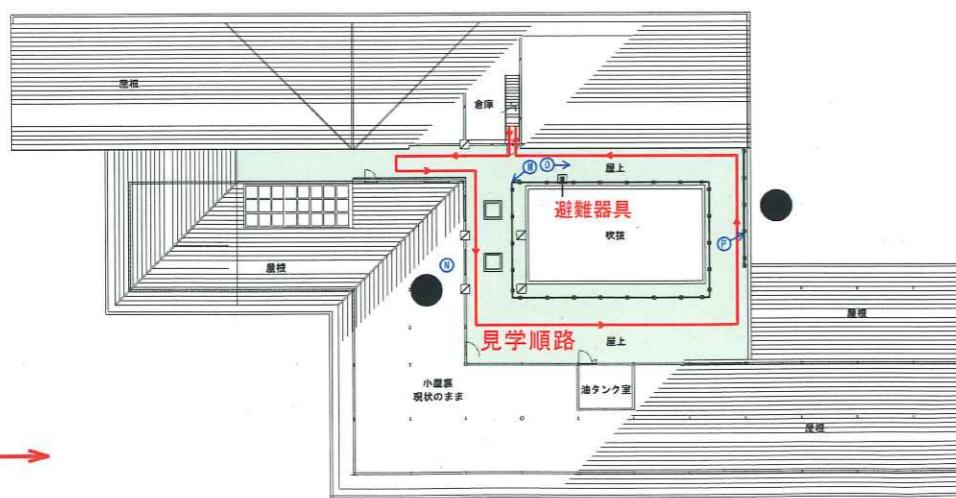
1階



2階



屋上



見学順路 →

[展示物の内容]

- ポイント① 災害は常に身近にあり、見学者の住む地域でも起こりうることを理解する。
- ② 3.11前後の比較や体験者の語りなどにより災害の脅威を伝え、防災の重要性を理解する。
- ③ 防災の啓発には継続性が重要となるため、複数回見学できる更新型展示とする。

動画(大人向け・子供向け)
更新型壁面展示など



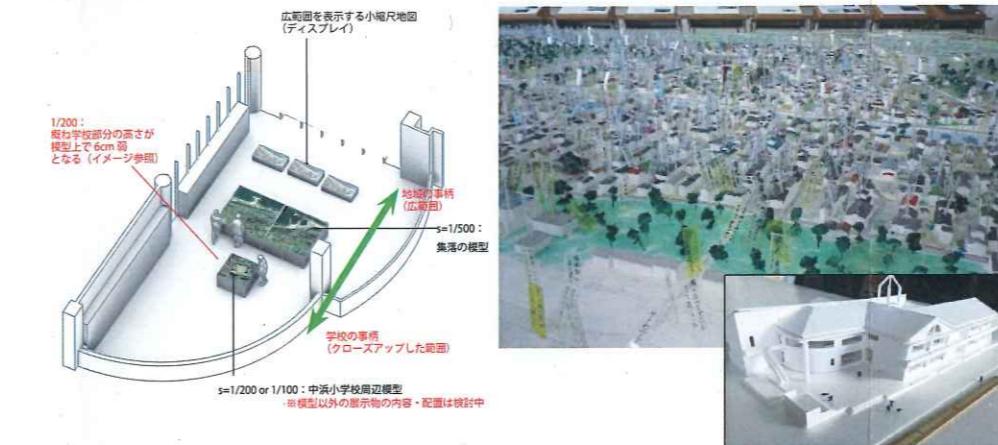
立入り制限区域の疑似体験
(360度カメラ画像のVR体験)



場所と連動した情報提供
(Bluetoothビーコン)



地域の人たちの思い出から作り上げるジオラマ／ディスプレイによる情報提供



[広場の土地利用構想]

- ポイント① 県道からの見え方
- ② 駐車台数と車両動線
- ③ 管理棟の配置・間取り
- ④ モニュメントの構想
- ⑤ 津波浸水深表示板の増設など

※全体的な土地利用計画は現在検討中



モニュメント構想

